

「匠カフェ」に込めた思い 誕生、そして未来へ



「みんなが輝いて働く匠カフェを、世界のまちに」
匠カフェのイメージキャラクター
「たくみん」(左)と「ゆめみん」(右)です。

The Takumi Cafe mascots:
Takumin (L) and Yumemin (R)



「匠カフェ」1号店は、2011年3月1日、福島市にて産声をあげました。障がい者が接客や調理を行い、主役として輝きながら働くことができるカフェを目指し、オープンいたしました。

知的障がい、精神障がいを持つスタッフが、お客さまからのご注文に正確に対応できるよう、iPadでオーダーが完了できる仕組みを開発しました。IT技術を駆使したこの受注システムは、障がい者の弱い部分を補ってくれます。これによって双方に安心感が生まれ、たくさんのお客さまとスタッフの温かいコミュニケーションにつながっています。

福島の匠カフェのオープン当時、スタッフのお母さんに、「子どもが匠カフェで働き始め、桜が咲いたように家の中が明るくなりました!」と喜ばれました。

しかし、スタッフみんなで盛り上げようと意気込んでいた矢先、匠カフェのオープンから11日後、東日本大震災に見舞われ、営業ができなくなりました。3か月後、どうにか再スタートできましたが、震災と原発事故の影響は、地元の飲食業界にも、たいへん大きなダメージをもたらしました。一日にお客さまは、1人…2人…そんな日が続きました。

きっとご家族のみなさんも、この状況を心配されていると思い、私は福島へ出向いた際、親御さんたちをお店にお迎えしました。私が直接お話をして安心していただこうと思っていると、あるお母さんが暗い表情で、こうおっしゃいました。

「社長、匠カフェは経営が赤字でしょう。継続は難しいですよ?今日は、いつやめるか、お話に来られたんですね?」

「いえ、匠カフェは絶対にやめません。ここは、みんなの希望と明日のやりがいを作っている場所ですから。そして親御さんにも、喜びや生きがいを感じていただきたいのです」

私がそう語りかけると、親御さんたちの表情は、パッと明るくなりました。

「匠カフェの継続を、簡単にあきらめてはならない」

このとき本当に強く感じ、それを心に刻みました。

やがて、匠カフェのことを知ったいろいろな方が、応援をしてくださるようになりました。以下、この場を借りてご紹介し、改めて御礼を申し上げます。

◎ コーヒーハンター川島良彰さん。「生産国と消費国をつなぐ架け橋となるコーヒーを」という想いで、世界各地の産地を駆け巡る、唯一無二のコーヒーハンターでいらっしゃいます。株式会社ミカフェート代表取締役。匠カフェのスタッフのために雇用環境を作っていただき、またスタッフに対してハンドドリップコーヒーの淹れ方などのドリップの技術も、直接ご指導くださっています。

◎ 人とホスピタリティ研究所代表の高野登さん。前ザ・リッツ・カールトン・ホテル・カンパニー日本支社支社長。チャリティー講演会の講師をお引き受けいただき、ホスピタリティの大切さを、丁寧に教えていただきました。

◎ 人と経営研究所所長の久保寛司さん。匠カフェのことを多くの人に広めてくださり、障がい者の働く場を創造する取り組みに、多大なるご支援をいただいている応援団長です。



◎ はせがわファミリー。「コミュニケーションアート」スターリマンの作品を、ご両親とお嬢様の家族3人で創作・発信活動を行っていらっしゃいます。画家のはせがわいさおさんと、お話創作の芳見さんご夫妻、デザイン・プロデューサーと朗読を担当する、娘の祐希さん。匠カフェでの紙芝居イベントをはじめ、障がいがある方とご家族のために、全国を巡回していらっしゃいます。

このような方々の温かいご支援のおかげで、少しずつ福島の匠カフェは元気を取り戻していきました。

「待つばかりではなく、町に出て、自分たちが作った商品をお求めいただく」

谷岡克也をリーダーとするスタッフがみんなでアイデアを出し合い、福島市の許可も得て、弁当の販売もすることにしました。地元のみならず、毎日、ご愛顧いただいております。

匠カフェを見学された、愛知県安城市から県立安城養護学校の校長先生が、訪ねてこられました。「私の学校の近くに匠カフェをつくっていただけませんか?これは、子どもたちと親、私たち教師、みんなの願いなのです」

その真剣なまなざしに突き動かされ、2012年7月、私たちは匠カフェ2号店として、安城市に「ポンテカフェ匠」をオープンしました。

「Ponte」とは、イタリア語で架け橋を意味します。匠カフェが地域社会の架け橋となるよう、親御さんたちによって選ばれた名前です。

ポンテカフェ匠では、校長先生をはじめとする先生方、歴代のPTA会長、親御さんたち、一般社団法人ラ・バルカの夏目浩次さん、匠カフェ総合プロデューサーの杉岡和彦、スタッフの小笠原幹、遠藤昌孝など、みなさんの努力により、滑り出しは上々です。

2012年11月には、匠カフェの3号店を、東京・青山の本社近くにオープンしました。

匠カフェのコンセプトは、おしゃれで、素敵な笑顔あふれるカフェ。そしてもちろん、お客さまに最高のコーヒーやお食事をお楽しみいただくことです。

匠カフェで働くスタッフは常に主役であり、スターです。匠カフェでは、さまざまな人たちが、お互いに気兼ねすることなく、心地よく過ごすことができます。また、たくさんのおいしいイベントも企画しています。

障がいをもつ子のお母さんが、もう二度と、産んだことを後悔しない社会になるように…。匠カフェは、これから全国に、世界に、100店舗展開することを目標に、まい進してゆきます。

みなさまのご理解とご支援を、よろしくお願い申し上げます。

アイエスエフネットグループ
代表 渡邊 幸義